
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター センターだより第220号(通巻第287号)

2025 年 11 月 27 日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790
E-mail: edjissen-as@yamanashi.ac.jp
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

*****コンテンツ一覧*****

■令和7年度子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 実施報告

ーOPPシートによる学習指導と評価の一体化ー

■やまなし情報教育推進室 先進校視察報告

■令和7年度 第1回 不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会報告

■第46回教育フォーラム 開催案内

「子どものインターネット・メディア利用に対する保健教育」の新たな展開
～子どもたちの健やかな成長に向けての取り組み～

■12月・1月の主な行事予定

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/> で見ることができます。

R7 子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 実施報告 －OPPシートによる学習指導と評価の一体化－

<事業概要>

山梨県総合教育センターとの共催により「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会－OPPシートによる学習指導と評価の一体化－」を開催しました。

本研修は、学習指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法である OPPA（1枚ポートフォリオ評価）についての研修会です。

本年度は、OPPAの中核をなす「本質的な問い」の立て方、自己肯定感を促す学習履歴の見取り方などを OPPAの基礎的な理論、事例、グループワークを通して学修しました。更に、授業を通じて児童生徒の自己肯定感を高めるためのワークショップなど、実践的な演習を中心とした研修を行いました。



令和7年7月30日(水) 中北会場 甲府市南公民館

令和7年7月31日(木) 富士東部会場 南都留合同庁舎

<講師> 辻本 昭彦 先生（法政大学生命科学部生命機能学科 教授）

本研修会は、山梨県総合教育センターとの共催事業として、総合教育センターの研修計画に組み込んでいただき、県内すべての学校に周知すると共に、各地区の教育事務所にもご協力いただきました。本年度は、通常の形で実施することができ、多くの方に参加していただきました。

<内 容>



研修会の前半では、OPPシートのねらいや作成に必要な構成要素などについての OPPAの概要と理論について、ご講義いただきました。

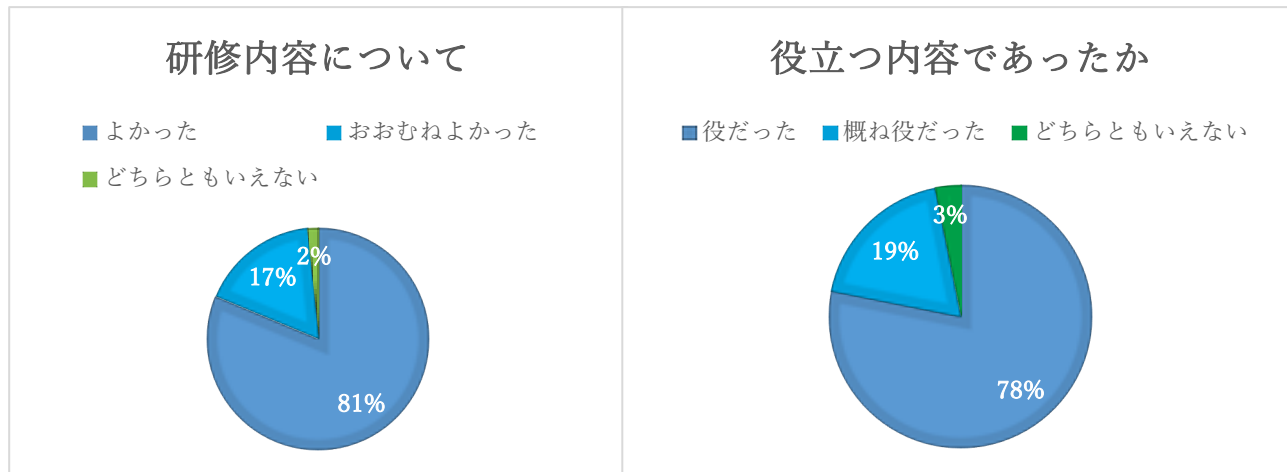
講義の後半では、OPPシートの本質的な問いをどのように立てたらよいのか、自己肯定感を促すための評価の見取り方コメントの書き方など、OPPAの具体的な進め方等についてワークショップを行い、最後に主体的に取り組む態度の評価とOPPシートとの関連についてのレクチャーがありました。

<受講者>

◆ 研修会 69 名

内訳：小学校 40 名、中学校 17 名、高校 7 名、支援学校 5 名

<参加者アンケート>



<成果と課題>

研修会で各自が記入した OPP シートによると、多くの参加者が自分の授業に対する考え方が変容したり、評価方法を工夫する必要性を感じたりしたことで、今後取り組みたいことが明確になったと記述していました。

<感想>

- ・講師の先生の一方向的な説明で終わるのではなく、要所要所で個人・グループ活動が取り入れられたため、多くの先生方（普段なかなか関わることの少ない他校種の先生も含む）と学びを共有しながら、楽しく深めることができた点。また、「Kahoot!」やアイスブレイク、思考ツール（ダイヤモンドチャート）等、多くの実践的な紹介や活用方法、体験活動があったため、すぐに実践できるものや具体的なイメージを持つことができた。講師の辻本先生の話し方もとても勉強になった。
- ・現在授業で振り返りを書かせているが、なかなか学びにつながっていないように感じていた。今回の研修ではOPPシートを用いての振り返りや、単元を通しての学習について学ぶことで自分のこうした疑問を解決することができてよかった。また学習感想をみとる視点等も知ることができてよかった。教えるのではなく、子どもが価値づける記号というものも知ることができてよかった。
- ・自身の授業改善に用いるべく、特に OPPA シートの活用法を学びたいとの思いから参加しました。実際の研修がそのまま生徒として授業を受けるような感覚で、「本質的な問い」に対する回答が、研修のはじめと終わりで大きく異なっていたことに驚きました。異校種の先生方とのグループワークも大変興味深かったです。来年も参加したいと考えています。内容、運営方法ともにとても良かったと感じています。

- ・ OPPA シートを使うことを通して、自分が教師として子どものどのような成長を期待しているのかを改めて確認する機会となりました。自己肯定感をもって主体的に学ぶ学習者を育てるために、まずは子どもが「認めてもらえる」「安心できる（否定されない）」と感じられる環境や関係づくりが大切だと思いました。それこそが、ただ指示をしてやらせるよりも、何倍もモチベーションにつながると感じました。
- ・ OPPA による評価によって、子供たちの自己肯定感、教師の授業計画・指導力の向上につながるということがよく分かった。本研修の中でのグループワークによって私自身も自己肯定感があがったとうれしくなる研修で、本研修を受けて本当に有意義であったと感じた。
- ・ 子どもの自己肯定感を上げるために、取り組めるワークショップを教員である自分たちも経験できたことで、実感できたので体験型の研修会で取り組めたことがよかったです。また自分で気づけないことを他者から良さとして見つけてもらい伝えてもらう喜びを、大人の自分も感じる事ができたことで、きっと子どもたちならより強くその思いを感じられるだろうと思いました。また、Kahoot!をやったことや、授業の動画をみたことも一方的な講義でなく、とても楽しく取り組みました。
- ・ 評価についての研修であったが、生徒に対するアプローチ方法、授業の目的の概念、今まで受けた研修会の中でも、トップクラス級に参考になった。特に、演習は、現段階でどの研修にも導入されているが、ここまで意味のあると感じた演習は初めてだったかもしれない。ありがとうございました。
- ・ 自分が担任している学級の授業の中で、本質的な問いを立てることや「問い」を立てることから子どもが学習課題を見出せるような展開をしてみたいと思う。また、子どもの自己肯定感を高め主体性を養っていけるよう、支援していきたいと思う。・学年懇談会などで、保護者の方が集まった際に「いいところ探し」をやって話しやすい雰囲気を作ってみたいと思った。
- ・ 今年度の校内研を進めるにあたって、子どもたちの自己肯定感を高めることはとても大切であると感じているため、研究主任として本研修で学んだことや具体的な実践内容について、今後の校内研を通じて先生方と共有していきたいと思う。また、自身は中学校社会の授業を担当しているが、日々の授業実践の中で、振り返りの充実が大切であると実感しているため、OPPA の活用にも積極的に取り組み、生徒の学びの充実や自身の授業改善につなげていきたいと思う。
- ・ 入学したばかりの1年生やクラス替え後の初めての授業などにおいて、本日講義いただいたアイスブレイクや自己紹介の内容は、非常にためになった。来年度にはなるが、入学後の初回授業でぜひ取り組みたいと思った。OPPA シートは、今後の学習活動ではいつでも導入可能と考える。單元ごとに取り組むが、その中で、一番理解してほしい「本質的な問い」について、どれくらい印象が残っているか、理解しているかを読み取ることができると感じた。また、コメントも、毎回ではなく重要なところにラインを引き、ここぞという時にコメントというとハードルがぐっと下がった気がした。

やまなし情報教育推進室 先進地域視察報告書

- 1 視察日 2025 年 9 月 8 日
- 2 視察先 静岡県吉田町立中央小学校
- 3 訪問者 新野貴則、稲垣俊介、三井一希、渡邊昭二郎、樋川裕幸
藤森啓太（北杜市立長坂小学校・教諭）

4 目 的

- (1) ICT を活用した学習に先進的に取り組む公立学校を視察することで、教員養成段階での情報教育の充実や情報活用能力の育成のためのヒントを得る。
- (2) 先進校と大学との連携体制の実態を視察し、本学と山梨県内の学校との連携体制の充実に資するヒントを得る。

5 内 容

(1) 公開授業の視察

- ・1 年（生活）、2 年（国語）、3 年（国語）、4 年（国語、算数）、5 年（家庭）、6 年（算数、国語）、特別支援学級（道徳）の授業が公開された。
- ・文部科学省リーディング DX スクールの指定校として、ICT を活用して情報活用能力の育成を目指した授業が展開されていた。
- ・全校で授業改善に取り組むために、「魅力的な単元づくり」「情報活用能力の育成」「メタ認知の向上」を共通取組事項として設定し、全教職員で継続的に取り組む体制があった。
- ・どの学年も発達段階に応じた 1 人 1 台端末の活用が見られ、学習の基盤として ICT 活用が位置付けられていることが確認できた。

(2) 全体会

- ・公開授業後に全体会に参加し、信州大学准教授 佐藤和紀氏の講演を拝聴した。深い学びにつながる見方・考え方の働かせ方、既有知識の構造化が重要であるとの指摘がなされた。
- ・一人一人の児童生徒を丁寧に見取るために ICT を活用することが大事であるとの話があった。

(3) 大学との連携

- ・GIGA スクール構想がスタート（2020 年）してから、吉田町では信州大学の佐藤准教授との連携を継続して行っている。大学と地域が長期間に渡って継続して関わることにより、授業改善を進めやすくなると考えられる。
- ・吉田町教育委員会では放課後公設学習塾を開催した際、大学生がオンラインで小中学生の学習を支援するといった取組をしていることを聞き取った。大学と教育委員会との連携のいち事例として参考になる。

6 所 感

中央小学校では教科学習の中でどのように情報活用能力を見取り高めていくか、情報活用能力を生かしてどのように教科の学びを深めていくかを全校体制で追究していた。また、生成 AI の活用にも先進的に取り組んでいた。さらに、大学と教育委員会が連携体制を取り、長期に渡って学校現場の授業改善を支援している体制が確認できた。

次期学習指導要領へ向けた論点整理の中間まとめ（素案）においても、情報活用能力の抜本的な向上策が明記されている。本学教育学部においても、学校現場との連携をより一層深め、情報活用能力の育成に資する指導ができる教員を養成していく必要があると感じた。

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター やまなし情報教育推進室 先進校視察報告書

- 1 視察日 2025 年 9 月 8 日
- 2 視察先 静岡県 吉田町立中央小学校
- 3 報告者 藤森啓太（北杜市立長坂小学校・教諭）

4 視察内容

(1) 公開授業の視察

視察した学級に共通していた点を、以下にまとめる。

① 探究的な学習過程

参観したどの学級においても、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」という基本的な学習過程で授業が行われていた。また、それら学習過程をクラウド上で事前に共有したり、授業開始時点で板書したりして、児童が学習の見通しを持って臨めるようにしていた。さらに、その時間で何をを目指すのか、何ができるようになるのかといった目標について、ルーブリック等を用いて児童と共有もしていた。これらのことは、〇年生だから、〇〇科だから、といった条件があるのではなく、発達段階によってその提示の仕方等は異なるものの、1年生から全ての学年かつ、様々な教科で行われていたことも特徴的であった。



② 多様な学びを保障する場づくり

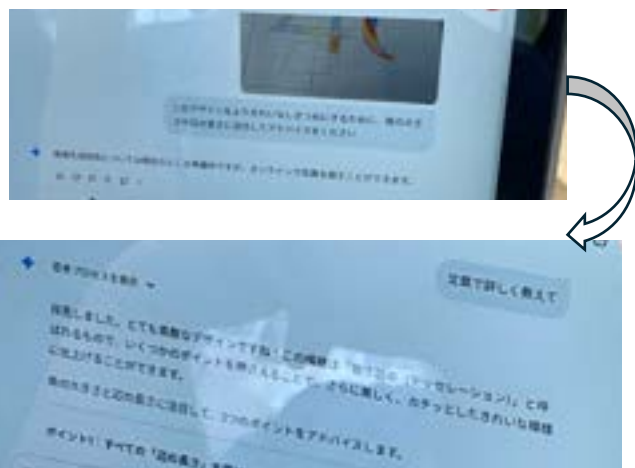
参観した授業の前提として、本時もしくは各自の目標を達成させるために、各自の興味関心や学習状況等を鑑み、「どのような情報が必要か」「誰とどのように学ばせるか」といった児童の学び方を教師が想定した授業づくり（場づくり）が見られた。具体的には、児童の学習状況等を座席表に落とし込み、併せてその実態に対する教師の具体的な手立てや場の工夫を書き込んでいた。さらに、抽出児童を設定し、本時の児童の変容から、その手立ての効果等を振り返ることもされていた。これらの作業は、すべてクラウド上で行われているため、容易に修正等が可能であり、指導や変容の記録を積み重ねていくことも可能になっていた。

A screenshot of a digital interface, likely a learning management system or a digital seating chart. It displays a grid of colored squares (orange, blue, green) arranged in rows and columns, representing different learning activities or student assignments. The interface includes a header with text in Japanese and a sidebar with additional information.

③ 情報活用能力の育成・生成 AI の利活用

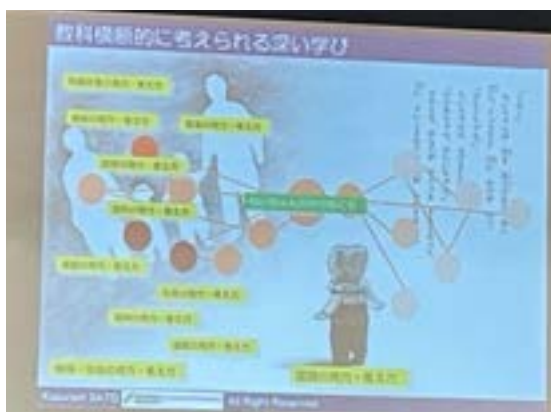
中央小学校では、学校として情報活用能力系統表を作成している。どの学年、教科においても、その授業の中で、どのような情報活用能力を身につけさせるのかを、系統表から抜粋し、指導項目として位置付けていた。特筆すべきは、この情報活用能力を各教科等の本質や深い学びに導くための手段としつつも、各教科等の学びと一体的な向上を図ろうとしている点である。このことは、単元構想や指導案上において、各教科等の学びと情報活用能力の関わりを具体的に明記する形で表れていた。

生成 AI の利活用については、学校としてガイドラインの基本を作成し、学級によっては、その利活用の仕方を、情報活用能力の一つとして、授業化していた。試行錯誤の段階ではあるものの、試しながらより良い活用方法を探ろうとしている児童の姿が多く見られた。ある児童は、授業の最初に入力したプロンプトでは思った回答が得られず、二の足を踏んでいたが、教師が他の児童の効果的なプロンプトが紹介した後、それを真似して必要な情報を得ることができていた。児童に対しては、その正確性に関わらず、実際に使ったプロンプトをその都度クラウド上のシートに入力させていたことが、教師の適切な介入につながっていた。



(2) 全体会

全体会では、信州大学の佐藤先生の講演が行われた。主に、①一人一人の学びをしっかりと捉えるための ICT 活用 ②深い学びの再確認とそのための情報活用能力・生成 AI の位置付け方 ③知識を関連づけて概念化したり、より多面的に捉えたりする深い学びについての話があった。知識関連については、考え方として、教科内の既有知識を関連させる縦のつながり、教科を横断して関連させる横のつながりがあること、そのつながりを授業に落とし込んでいく際には、情報活用能力との一体的充実、ICT 活用を含む、これまで以上の教材研究が求められることが示された。



（３）校内研修の在り方

中央小学校の校内研修は、校内の教職員に留まらず「吉田町全教職員研修会」と題して、吉田町にある他の小学校の先生方が参加し、研究を深めている。研究を進めていく上で、行政（町教委）のサポート体制・伴走体制が充実しており、現場と行政が一体となって、より良い授業実践を目指したり、教育環境の整備に努めたりしていた。また、（１）の項で紹介した情報活用能力系統表のように、校内で統一した指標を示す一方、指導案の書き方や書く内容に関しては、各学級にある程度の裁量を持たせていた。

５ 所 感

全体を通して、先生方の「チャレンジ精神」の高さを様々な場面で感じる事ができた。授業者はさることながら、管理職、教務、他の吉田町の教職員など、立場は違っていても、それぞれの立場からできること・やるべきことを考え、同じ目標に向かって歩みを進めている姿が大変印象的であった。また、所属校で研究主任をしている私にとっては、子供達により良い教育を提供していくための個人レベルで授業の質を高めるアプローチだけではなく、組織的なアプローチを行なっていく重要性を改めて感じさせられた時間でもあった。授業レベルでの気づき、校内研修としての気づきを本校の校内研修にも生かしていきたい。



令和7年度 第1回不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会

「仲間とつながるメタバース空間」体験会

主催：山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（教育相談室＋やまなし情報推進室）

共催：山梨県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課

山梨大学教育学部附属教育実践総合センターでは、山梨県教育委員会と連携し、「仲間とつながるメタバース空間」をテーマに、同年代の子どもをもつ保護者同士の意見交換会を開催しました。

保護者の方々がつながりを持つことで、不安に感じていることを共有し、具体的な不登校支援に関する情報交換を行うことができました。以前から、子どもたちの居場所や直接的な支援を求める声があり、今回の取り組みはメタバース空間を「子どもたちの居場所」として体験する貴重な機会となりました。さらに、当会を通じて初めて子どもたちとのやり取りも実現しました。

当日は、やまなし情報推進室の三井一希先生よりメタバースの使い方や可能性についてご説明いただき、新野貴則センター長にもご参加いただきました。保護者の方々は興味深く耳を傾け、メタバースを活用することで、不登校の子どもたちが人とつながりを持ち、安心できる居場所として活用できる可能性を感じていただけたと思います。今回の試験的な取り組みを通じて、今後もメタバース空間でのつながりや支援の輪を広げていきたいと考えています。

情報交換会の周知については、必要とする方に届くよう様々な方法で取り組んできましたが、参加者は6名にとどまり、今後の課題となっています。一方で、参加者からはアンケートで「とても満足した」という声が多く寄せられ、終了後も保護者同士が熱心に情報交換を続ける様子が印象的でした。「不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会」が、保護者同士のつながりや支援の輪を広げる一助となっていることを実感しています。今後もセンターとして、より多くの方に届く工夫を重ねながら、つながりの場を継続して提供していきます。

1. 実施日

令和6年9月10日（水）

10:30～12:30（受付10:00～）

2. 場所

山梨大学甲府キャンパス L号館C棟1F LC-13、LC-15教室（甲府市武田4-4-37）

3. 参加者

6名

4. 情報提供

・山梨大学教育相談室 リーフレット 配布

令和7年度

第1回 不登校の子どもを支える保護者の会 体験会 + 情報交換会

事前申し込み(定員35組 先着順)

主催：山梨大学教育実践総合センター（教育相談室＋やまなし情報推進室）
共催：山梨県教育委員会

2025年 9月10日 水 10:30～12:30（10時開場）

※控室がございませんので、10時以降のご来場にご協力をお願いいたします。

テーマ

仲間とつながる メタバーズ空間 体験会



※詳しくは次ページをご覧ください

場所

山梨大学
甲府西キャンパス

L号館C棟1F
LC-17・LC-15教室

注意
事項

- ✓ 保護者以外の参加はご遠慮ください。
- ✓ 駐車場はありませんので、公共交通機関を利用してお越しください。
- ✓ 会場等の変更が生じた場合は、お申し込みいただいたメールアドレスにご連絡いたします。
- ✓ 皆様に心地よくご参加いただくために、この会を通じての個人的な勧誘はご遠慮ください。

締め
切り

8月27日(水)

申し
込み
方法

右下QRコードからお申込み
ください

問い合わせ先
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター
渡部 雪子
kyoiku_soudan@yamanashi.ac.jp



不登校の子どもを支える保護者の会とは？

山梨大学教育学部附属教育実践総合センターでは山梨県教育委員会と連携し、不登校のお子さんを持つ保護者の方のさまざまな思いを分かち合う交流を行っています。会には、臨床心理士・公認心理師や大学教員も参加しますので、気になることをご相談いただくことも可能です。体験後にグループに分かれて保護者の方の情報交換会を行います。個別相談のご案内もしています。

メタバース空間とは？



メタバース空間とは、インターネットを利用した3次元の仮想空間やサービスのことです。メタバース空間は、現実以外でのつながる場として不登校のお子さんへの新たな支援方法として着目されています。体験会を通して山梨大学やまなし情報推進室が作成したメタバース空間についてご紹介しながら、子どもたちがつながる場としてご体験いただきます。お子さんはご自宅からメタバース空間にアクセスいただき、保護者の方や参加者の方とメタバース上で交流していただく予定です。

※保護者の方のパソコンは会場で用意します。

※自宅からのアクセスにはインターネット環境が必要です。

※接続トラブルなどには対応できませんので、あらかじめご了承ください。

■ 参加者アンケート結果

問1 本会の開催をどのようにお知りになりましたか

- | | |
|-------------------|-----|
| ① 学校から配布されたチラシをみて | 5 名 |
| ② 先生からのすすめで | 0 名 |
| ③ 知人からのすすめで | 0 名 |
| ④ その他 | 1 名 |



問2 本会に参加していかがでしたか

- | | |
|----------|-----|
| ① よかった | 4 名 |
| ② まあよかった | 1 名 |
| ③ よくなかった | 0 名 |
| ④ わからない | 0 名 |



問3 メタバース空間を体験されていかがでしたか？お子さんが参加しやすい形にするためのご意見があればぜひお聞かせください。

- 顔を出さなくていいのは安心できると思う。子どもがやるとしたらスマホからのアクセスになるかと思うがどんな所が制限されるのか。
- 子どもがいつでもメタバースの空間に入れる時間があれば参加しやすいと思います。
- 個人が特定されない、自分の好きなアバターが作れる楽しく使用できそうだとおもいました。学校のオンライン授業で取り入れていただきたい。入室状況が先生のみで生徒に特定されないシステム。子どものストレスになる場合があるため。
- 親の精神的サポート
- 子どもの段階や年齢よってのサポート(精神・学力)
- オンラインでも授業を受け、課題をメール等で提出し出席扱いにしてほしい。
- 今日体験した内容で充分だと思いました。学校単位ではなく、違った形がいいと思う(我が家は)。
- 空間に入ることのメリットがあると入りやすい(習慣となりやすい)気がしました。
- 楽しく参加できた。子どもが興味を示すようなイベントというか文言があると誘いやすいし、参加率があがりそう。

問4 不登校の子どもを支える上でどのようなサポートがあると良いでしょうか。よろしければご記入ください。

- 悩みは多様なので同じような悩みの人とつながれる場が欲しい。大学生を小中学校にというお話がすごくいいなと思ったので、是非広めてほしい。
- 子どもの居場所の多様化があると良いです。家や学校以外に行ける場所(自由に)相談しやすい場所があれば助かります。
- 自由に参加できる場所(学習できる)。予約制なので。
- 「不登校でもいいんだ」と励みになると嬉しいです。将来への不安をなくしたいです。
- 多くの人と関われる場所。

問5 本日のセミナーや情報交換会のご感想をご記入ください。

- これからまだ長い人生を過ごしていくという事を考えると、悩みは尽きなく、解決策がすぐ出てくることはないという事も実感しているが、こういう場を設けてくれる方々がいる、考えてくれるところがあるという事が助けになります。今後ともよろしくお願いします。
- 他の人と話す機会があったので良かったと思います。他の人と話すことで気持ちが楽になりました。
- 自分一人ではない。みんな子どもの将来のことを考えて悩んでいることを感じました。
- 少し気が楽になりました。ありがとうございました。また参加できたらと思います。
- 苦しさから少しでものがれ、前向きになりたいと考えています。子どもの現状を知ってもらえてよかったです。また参加していきたいので、学校からチラシをもらえると嬉しいです。
- 同じ気持ちを持つ親たちと交流できてよかった。

今後の課題と次回に向けて

令和7年度 第1回 不登校の子どもを支える保護者の会では、新たな取り組みとして情報交換会に加えてメタバースの体験会を合わせて実施しました。不登校の子どもたちを日々支えている保護者の方たちの何らかの手がかりになっていればと思います。残念ながら参加者が少なかったことから、次回に向けて周知方法の見直しや開催時期・曜日等を工夫していくことが今後の課題となりました。

また、不登校の子どもを支援するうえで必要なサポートとして「定期的に参加できるオンラインを含めた居場所」というご意見がありました。特に不登校の低年齢化が指摘されている昨今の状況におきましては、こうした子どもたちへのメタバースやオンラインを含む居場所を模索していくことが今後の課題であると考えます。

ご参加いただきました保護者の方々、児童生徒の皆さまありがとうございました。

「子どものインターネット・メディア利用に対する保健教育」の新たな展開

～子どもたちの健やかな成長に向けての取り組み～

現代の子どもたちは、インターネットやメディアと密接に関わりながら生活しています。しかし、その過度な利用が心身の健康に悪影響を及ぼす可能性があることが、国内外の研究や調査から明らかになってきました。山梨大学附属の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校では、令和4年度から継続して、子どものメディア利用実態に関する調査と、それに基づく保健教育の実践を行ってきました。

本フォーラムでは、各校園が取り組んできた実践事例を紹介しながら、子どもの発達段階に応じた保健教育のあり方について考えます。中学校では、生徒自身がメディアとの付き合い方を見直す「Don't沼プロジェクト」やセルフチェック活動を通じて、生活習慣の改善が見られました。小学校では、睡眠時間の確保を中心とした指導や、保護者・教員への働きかけを通じて、家庭との連携を強化しました。幼稚園では、就寝前のスクリーンタイムを親子のリラックスタイムに置き換える「リラ活プログラム」を実施し、子どもの情緒の安定や保護者の意識変容が見られました。特別支援学校では、個々の状況に応じたメディア利用の管理を保護者と共に進める取り組みが行われています。

これらの実践から得られた知見を共有し、どのように子どもたちの健康と発達を支えていくかを共に考える機会としたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【日時】 令和8年1月27日（火）

18:00～20:00

対面とオンラインのハイフレックス方式での開催

【会場】 山梨大学甲府キャンパス J号館5階A会議室

【講師・コーディネーター】

若本 純子（山梨大学教育学部やまなし小学校教育講座教授）

【実践発表】

望月 なぎ沙（山梨大学教育学部附属幼稚園養護教諭）

大間 絵理奈（山梨大学教育学部附属中学校養護教諭）

【入場料】 無料

【対象者】 教員 学部学生 大学院生 大学等の研究者
県内外の教育関係者 一般市民の皆さん

【主催】 山梨大学教育学部

【共催】 山梨県教育委員会

【後援】 甲府市教育委員会



参加希望の方は、上のQRコードのリンク先より1月20日(火)までにお申し込みください。
前日までにZoomミーティング参加のためのURL等をお送りいたします。

【お問い合わせ先】
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（事務室）
TEL 055-220-8325
E-mail edjissen-as@yamanashi.ac.jp

■ 12・1月の主な行事予定

12～1月の 行事予定

山梨大学教育学部の
関係行事を含みます

研 修

○第46回教育フォーラム

「子どものインターネット・メディア利用に対する保健教育」の新たな展開 ～子どもたちの健やかな成長に向けての取り組み～

1月27日(火) 18:00～20:00・・・教員、学部学生、大学院生、大学等の研究者、県内外の教育関係者 一般市民の皆さん
※対面とオンラインのハイフレックス方式での開催

教員採用試験対策講座

○時事通信出版局による模擬試験 1

12月13(土) 13:15～17:30・・・2・3年、M1

○時事通信出版局による教員採用試験対策講座

1月7日(水) 13:10～16:20・・・2・3年、M1

○ウォーミングアップ講座 2～二次試験対策の基礎・基本～

1月23日(金) 16:30～18:00・・・3年、M1

○学内模試 2

1月28日(水) 13:20～16:00・・・2・3年、M1

進路支援

○3年生学生面談

12月10日(水)～12月24日(水) 13:00～16:00・・・3年全員

○教員採用試験に向けての相談期間

(教採合格者によるアドバイス)Ⅱ

12月8日(月)～12月12日(金) 10:40～16:20・・・2・3年

教育ボランティア

○教育ボランティア報告会

12月10(水) 14:50～16:20・・・全学生